

越後駒ヶ岳道迷い(2022年7月)

足を滑らせ転び右足首に痛み。時間短縮のためルート変更し道迷い。地図を確認し沢沿いで合流できると考え、藪こぎと膝まで水に入り、なんとかルート復帰した。



解説

足を滑らせ転ぶ。(登り両手両足使ったのに、下りは前向きで両足だけと、怠ったのが原因だと思います。登りの方を避けた後でした)右足首に痛みあるも、そのまま下山。道行山から下山すると時間短縮できると考え、ルート変更。(道行山から下山は、よほどの熟練者でないと危険でした!)急傾斜の下り連続、道迷いとなる。急斜面を約3メートル滑落。ストック紛失。

(追記 足痛く足元ばかり見て、ルート確認を怠ったのが、道迷いの原因)滑落した時は慌てましたが、落ち着いて我が身を確認、右足首の他は大丈夫。地図を確認。直ぐにルート復帰するより、沢沿いで合流できると考え、約100分近く藪こぎと、膝まで水に入り、転んでは水浸しになり、なんとかルート復帰できました。(HP参照)

道迷いの心理は不思議である。道行山からの正ルートは尾根上で、沢になった瞬間(もう少し手前の斜面でも気づく?)「あれっ?おかしい?」と思っただろう。地図を見て、「このまま進んでも沢で合流できる。」と判断してしまうのはやはり冷静さに欠けている。合流はできるものの、滑落、藪漕ぎ、沢歩き、転倒、滝のリスクは考えずに「なんとかなる!」と思ってしまう。道迷いの心理の初期の段階では、リスクよりも「行ける」と考えてしまう傾向にあるので気を付けたい。